

第1学年

話すこと・聞くこと

大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

知りたい情報を聞き取れず、インタビューが続けられない。

元の質問に戻ってしまっている。

A：今、一番楽しいと思っていることは何ですか？

B：ピアノです。

● A：わかりました。

● A：ピアノは楽しいですか？

実践の概要

単元名

きいて しらせよう

『ともだちに、きいてみよう』光村図書

目標 大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができる。

内容 ・友達に聞いてみたいことを話し合う。

・2人組でインタビューをし合う。

・インタビューしたことを、みんなに知らせる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・「いつ」「どこで」「だれと」など5W1Hの情報を相手から入手するためにインタビューし、臨機応変に質問したり答えたりすることができる。
- ・インタビューでわかったことを知らせたり聞いたりする活動に意欲的に参加し、友達により高い興味・関心をもつ。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

付属CDや、インタビューを続けるのが上手な児童をモデルとして提示する。

活動のねらい▶ ・どんなふうに切り返せば、インタビューが上手くつながるかがわかる。

ここがポイント

まず、付属CDの音量や口調を真似る学習をして、ある程度「インタビュー」の形態を整える。その中で、相手の答えに対して自分の感想などを言ったり、答えを聞いてさらに詳しくたずねたりする部分が難しい。そこで、実際に切り返しができている児童にモデルとしてインタビューをさせる。この時、質問する側もその場で答えられる児童を選ぶ。ペアのモデルを提示して、インタビューの面白さを伝える。

授業の様子



どんなふうにするんですか。

つかまらないように、速く走ります。

おもしろそうですね。ぼくもしてみたいです。

(期待される児童の姿)

相手の発言に合わせて質問したり答えたりできる児童をモデルとして提示することで「質問のバリエーションが多く、自然な切り返し等ができていいるインタビュー」を具体的にイメージできる。また、自分もしてみたいという意欲も高まる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

「いつ」「どこで」「だれと」など、5W1Hが情報に入っているかを聞き取るよう指導する。

活動のねらい▶ ・知りたい情報の基本的な事項を意識することで、大事なことを落とさずに聞いたり、質問したりすることができる。

ここがポイント

5W1Hは、日記やスピーチなどで日常的に意識させる。その上で、インタビューの場面でも利用できることを知らせる。インタビューを受けるときにも、5W1Hを記入したメモを用意させる。インタビュー後のワークシートも、5W1Hの項目別に記入できるように枠を作る。

授業の様子



項目：いつ・どこで・だれと・どのように・そのほか（気持ちなど）

インタビューしたことを書いておこう。これで、みんなに知らせられるぞ。

(期待される児童の姿)

「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」という情報を聞き出すとよいことを知り、ここから話題に入っていける安心感をもって質問につなげられる。また、求めている情報が手に入ったかの判断材料にすることもできる。

書くこと①

第1学年

観察、記録したことから書くことを決め、まとまりのある文章を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

わたしのがつこうに
は、うさぎの「ぺこ」が
います。
けはちやいと白
です。
耳はたっています。
けがふさふさです。
がつこうにきたら、
ぜひ「ぺこ」をみてく
ださい。

うさぎのことを書いた紹介文である。「毛」という観点について書かれたところが、同じまとまりに書かれておらず、思いついた順序で書いてしまっている。

実践の概要

単元名

しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう

『しらせたいな、見せたいな』光村図書

目標 自分が紹介したい生き物を観察して、メモに書き、それをもとに紹介文を書く。

- 内容
- 紹介したい動物のメモを取る。
 - メモから文章に書き表す方法を学ぶ。
 - 紹介文を書く。
 - 新1年生に動物を紹介する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』！	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- メモしたことを観点ごとにまとめることで、自分の考えを明確にできるようになる。
- 観点ごとにメモを分類することで、まとまりのある文章を書くことができるようになる。

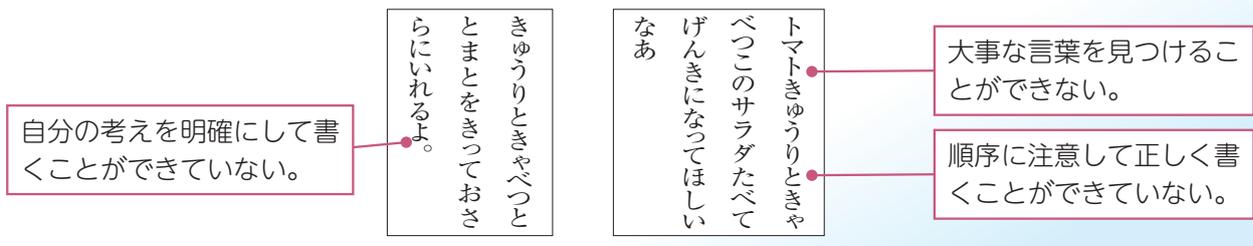
第1学年

書くこと②

大事なところを見つけて文章を書きまとめること

つまずきの実態 ～こんな児童の姿が見られませんか？～

大事な言葉を見つけ、順序に注意して正しく文や文章を書くことが難しい。



実践の概要

単元名 サラダでげんき おしゃべりレシピをつくろう! 『サラダでげんき』東京書籍

- 目標** 材料やその効果などの大事な言葉を入れ、順序に注意してサラダのレシピを書く。
- 内容**
- ・マス目の数を意識しながら、大事な言葉を探し、書き込む。
 - ・順序に気を付けて読みを深めるために、登場する動物の順序が視覚的にわかる「一枚ワークシート」に書く。
 - ・りっちゃんと動物たちによってできたサラダに、自分も何を入れたらよいかを付け加えてサラダのレシピを作る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	町の未来をえがこう	資料を正確に読み取っているが、「この資料が本文に述べられている要旨につながるものではない」という判断ができていない。
第5学年	和の文化について調べよう	自分の考えを明確に伝えるために文章構成を考えているが、効果的ではない。
第4学年	わたしたちの生活とロボットについて考えよう	様々な角度から考え、内容を整理して書くことや接続語や指示語、文末表現を効果的に使って書くことができない。
第3学年	要約名人になってもうどう犬リーフレットを作ろう	中心となる言葉や文を見つけ、要約することができず、長い文を書き写してしまう。
第2学年	どうぶつのひみつをみんなでさがろう	見つけた大事な言葉を使って、順序よく書きまとめたり、不要な言葉を省いたりすることができていない。
第1学年	サラダでげんき おしゃべりレシピをつくろう!	大事な言葉を見つけ、順序に注意して正しく文や文章を書くことが難しい。

単元末の目指す姿

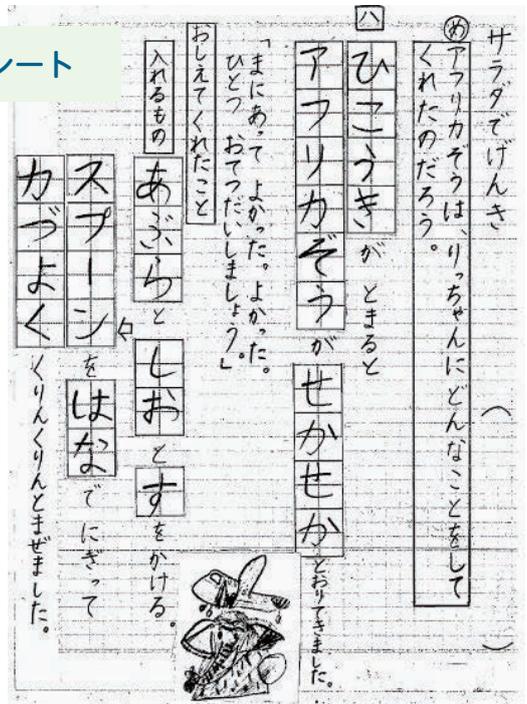
- ・本文の中から、大事な言葉を見つけられるようになる。
- ・自分の考えを明確にして、文章を書くことができるようになる。
- ・順序を意識しながら、本文を読み、文章に書きまとめられようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

マス目入りのワークシートを用いる。

活動のねらい▶ • 字数の条件を設定することで大事な言葉を見つけやすくなる。

マス目ワークシート



ここがポイント

国語の指導において、“本文に戻る”ことはとても重要である。1年生の段階から、授業展開に、字数をヒントに本文中の言葉を探させる学習を組み込むことで、一つ一つのことに着目する力を育む。また、自然に大事な言葉に導くことができるように文を精選している。

(期待される児童の姿)

マス目のワークシートを用い、字数の条件を設けることで、本文から大事な言葉を抜き出して書けるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

毎時間、本文の大事な言葉をヒントにしなが「一枚ワークシート」に書きまとめる活動を行う。

活動のねらい▶ • 登場人物になりきってふき出しに書かせることで、自分の考えを明確にして文を書くことができる。

一枚ワークシート



ここがポイント

登場人物の出でくる順に、毎時間1つずつふき出しを書く。それが、1枚のワークシート上で行われることで、順序が可視化される。また、1枚に書きまとめることで、教師も児童の「書く」力の変容を見取りやすくなる。

(期待される児童の姿)

登場人物になりきってふき出しにまとめさせることで、大事な言葉を用いながら自分の言葉で文が書けるようになる。

書くこと③

第1学年

自分の考えを明確にしながら、調べたことをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

自分が関心をもったことを感想として書き出していて、事柄ごとにまとめてかゝるたに書くという目的意識がもてていない。

ジェットきは、すごよ。大きくて、はやくとぶよ。ぼくものつてみたいな。

でんしゃは、たくさんのおいでいばい。しゃしやうさんがいます。

乗り物の特徴や事実は書いてあるが、学習のめあてに則した内容を見つけたり、役目・つくり・できることを表す書き方で書いたりできない。

実践の概要

単元名

のりものかるたをつくろう

『いろいろなふね』東京書籍

目標 書かれている内容を事柄ごとに読み取り、わかったことや調べたことをまとめ、のりものかるたを作る。

- 内容
- 読み取ったり調べたりしたことを、事柄ごとにまとめたのりものかるたに書くという単元の見通しをもつ。
 - 書かれている内容を事柄(役目・つくり・できること)ごとに読み取り、大事な言葉を探して文章にまとめる。
 - 「のりものかるた」を作り、交流し振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容(単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 調べたことを事柄ごとに整理でき、伝えたい内容が決められるようになる。
- 目的を意識しながら教材文を読み取るようになったり、教材文の事柄ごとの定型文を活用して文章が書けたりするようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★主体的な学びにつながる実践

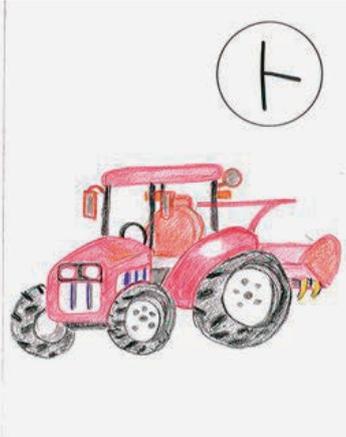
導入時に教師作成の成果物を提示し、わかったり調べたりしたことを事柄ごとにまとめたのりものかるたを作るという単元の終末段階を示す。

- 活動のねらい▶
- 目的意識や学習の見通しがもてる。
 - 目的的に教材をとらえ、事柄ごとに読み取ることができる。

ここがポイント

教材文で学習するかるたの内容や書き方、レイアウトなどがわかる成果物を提示し、学習への意欲付けや学習の見通しをもてるようにする。提示する成果物は言語活動のモデルとなり、いろいろな段階で、児童がどのように書けば良いのか考えられるようにする。

言語活動のモデル



(期待される児童の姿)

教師作成の成果物を提示することで、どんな学習をするのか、単元の見通しをもつことができ、毎時間の目的意識も明確にもてるようになるなど、主体的な学びにつなげることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

事柄ごとに色分けした穴埋め形式のワークシートを用いる。

- 活動のねらい▶
- 事柄ごとに内容を整理したり、事柄ごとの書き方を意識したりすることができる。

ここがポイント

「役目」「つくり」「できること」が書かれている段落の中で、それぞれ大事な言葉を穴埋めにしているワークシートを用意し、児童が事柄ごとの内容を考えられるようにする。また、その理由を話し合うことで事柄ごとの書き方にも気付くようにする。

穴埋め式のワークシート

			【やんぱん】
		火	
ま		じ	
す	き	が	
		あ	
		る	
		と	
		、	
		、	
ま	や		

		【いんげん】
		い
		ま
	や	す
		。
		を

		【やくも】
		め
		の
		ふ
		ね
		の
		で
		す
		。
		を
		た

(期待される児童の姿)

事柄ごとに色分けし、マス目を使った穴埋め式のワークシートに大事な言葉を書かせることで、事柄ごとに内容を整理できるようになる。

読むこと①

第1学年

場面の様子について、想像を広げながら読み、文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

気持ちを想像する時、表面的な感情表現のみになっている。

浅い読みにとどまっている。

エルフへ
エルフは世界でい
ちばんすばらしい
犬だよ。
まい日いっしょに
あそんでたのしかっ
たね。
エルフがしんでし
まってかなしいよ。

教科書の記述をそのまま書いている。

実践の概要

単元名

おはなしのおみせやさんごっこをしよう

『ずうっと、ずっと、大すきだよ』光村図書

目標 登場人物の言動を中心に想像を広げ、その時の中心人物の気持ちを感じながら読むことができる。

- 内容
- 場面ごとに中心人物の言動を根拠にして、その時の気持ちを想像してワークシートに書き、自分の考えをまとめる。
 - 登場人物に手紙を書いて交流し、自分と友達との感じ方の共通点や相違点に気づき、考えを広げたり、深めたりする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- 友達と交流する中で、なぜそう思うかそのわけを本文の中に見出したり、自分の経験と結び付けて考えたりできるようになる。
- 自分だけでは気付かなかったことに思いが向き、新しい考えを得たことに「なるほど」と喜び、他にはどうだろうかと考えを広げることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

構造的な板書をデザインする。

活動のねらい ▶ 1時間の流れが視覚的にわかるようにデザインすることによって、児童の想像を誘い、広げ、中心人物の気持ちを豊かに想像させることができる。

板書

♡カードの貼り方を工夫し、「エルフ」に集中していた「ぼく」の気持ちが横に広がったことが想像できる。

紙板書を活用し、集中して書くことと思考の焦点化を図る。

カードに書くことにより、キーワードを強調する。



「めあて」との整合性がある「まとめ」にする。

自分の言葉で発言した練り合いを中心に書く。

心情曲線や矢印により、「ぼく」の気持ちの変容がわかる。

挿絵を2枚に厳選し、高低差をつけて貼ることにより思考を支える。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

登場人物へ手紙を書き、友達と交流する活動を行う。

活動のねらい ▶ キーワードに着目しながら、自分の考えや想像を広げる。

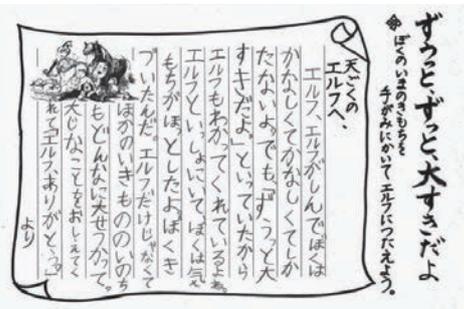
ここがポイント

- キーワードやそれにつながる言葉を教師と一緒にワークシートに書かせることで、登場人物の気持ちや想像する視点をもたせる。
- ワークシートをもとに手紙を書く。友達と交流する際には、キーワードや登場人物の心情、自分の考えが表れているかなど、交流する視点について板書を用いて確認する。

授業の様子



なるほど、だからエルフに「ありがとう」と思っているんだね。ぼくもそれを書き足すよ。



(期待される児童の姿)

友達と交流することによって様々な感じ方があることを知り、なるほどと思ったり、反対したりして、自分の考えを広げたり深めたりさせることができる。

読むこと②

第1学年

場面の様子について、想像を広げながら読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

どの言葉が登場人物の気持ちを表しているのかを読み取ることが苦手である。

おじいさんが、かぶのたねを まきました。
「あまい あまい かぶになれ。 あまい かぶになれ。」
おおきな おおきな かぶになれ。」

登場人物の気持ちについて、読み取ったことを、音読に表すことができない。

実践の概要

単元名

音読発表会をしよう

『おおきなかぶ』 光村図書

目標 場面の様子や増えていく登場人物について、想像を広げながら読むことができる。

- 内容
- ・ あらすじをつかみ、場面分けをする。
 - ・ 8つの場面の様子や登場人物の気持ちを想像して音読する。
 - ・ 音読発表会をする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・ 文章中の言葉から登場人物の気持ちへと自分なりに結び付けることができるようになる。
- ・ 場面ごとの様子や人物の気持ちを想像し、声の大きさ、速さなどに気を付けて、音読にいかすことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

場面ごとに動作化をしながら、登場人物の会話をインタビュー形式で聞く活動を行う。

活動のねらい▶ 登場人物の会話や気持ちを想像する手助けにすることができる。

ここが
ポイント

動作化した直後、インタビュー形式でそれぞれの人物の会話や気持ちを聞いていくようにする。また、それぞれの場面の「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」などの言語表現の違いやおもしろさも、動作と結び付けて味わうようにする。

授業の様子



さあ、ひっぱるよ。
うんとこしょ、
どっこいしょ。

おじいさん、
さっきと何か変わりましたか。

ねこさんが来てくれて、さっきよりは動いているんだけど、なかなかだなあ。もう少しなんだけど。

(期待される児童の姿)

それぞれの登場人物になって、かぶを引っ張った後、インタビュー形式で聞くことにより、自分の言動と登場人物の気持ちを結び付けることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

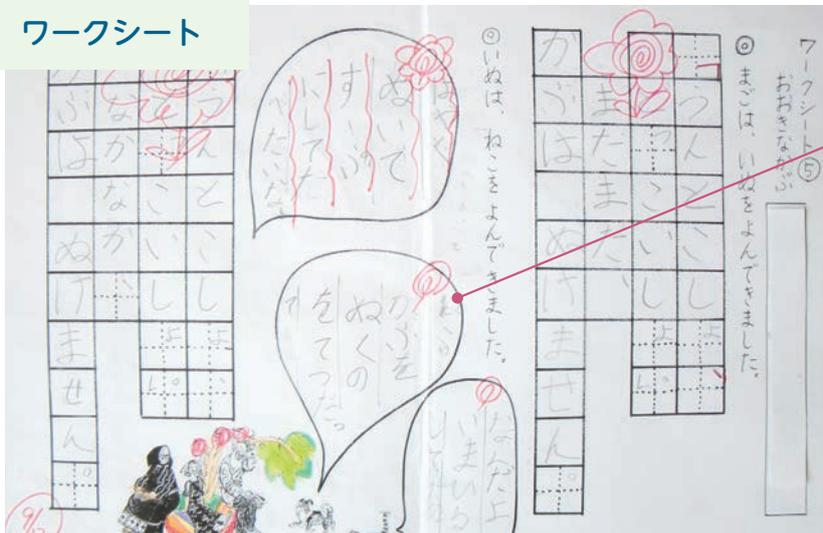
登場人物の会話や気持ちについて、ワークシートを用いて整理させる。

活動のねらい▶ 繰り返しの表現のおもしろさや登場人物の気持ちを読み取ることができる。

ここが
ポイント

- 挿し絵を利用した場面ごとのワークシートを作成する。
- 各場面での登場人物の会話を想像し、ワークシートに記述していき、場面ごとの読み取りを深めていくようにする。

ワークシート



ふき出しに書きこませることで、その人物の視点を持ちながら、自分の言葉で気持ちを書くことができる。

(期待される児童の姿)

動作化での体験を手助けに、場面ごとに人物の会話や気持ちを書くことで、気持ちの移り変わりを一人一人が考えることができる。